

## 千里国際学園 中等部・高等部

### 第二の開校へ

= 2010年4月より、「関西学院 千里国際中等部・高等部」になります =

教頭 井藤 眞由美

『千里国際学園』は、2010年4月より『関西学院 千里国際中等部・高等部』となります。

この変更の意味について、色々な形の文書や、あるいは、校長が説明会等で直接お伝えさせていただく機会がすでにあったかもしれませんが、いよいよ合併の日が近づいてきた今、改めて私たち SIS が進んでいる方向についてお話させていただきたいと思います。

#### 学校は変わらない

合併が決まってから、この言葉は折に触れ使われてきました。正式名称は変わりますが、「SIS」という略称もスクールロゴも、これからも変わりなく使っていきます。

そして、何よりも大切な教育の中身ですが、これについても合併による特別な変化はありません。「千里国際はこれまでの教育を続けることによってその使命を果たしていくこと」が合併の基本合意となっています。これまで SIS から関西学院大学に進学した者が、他の学生とは一線を画するとても前向きな学習態度を持った大学生であることに注目していただいたことがきっかけで進んできた合併です。

『変わらない』ということの具体的な事例をいくつか紹介しましょう。

関西学院はキリスト教主義に基づいた学校ですから、本来ですとチャペルアワー等の宗教教育が授業に取り入れられるべきところですが、夏休み以降関西学院の方々が学校を頻繁に訪れて下さり検討の末、以下のように確認されました。本校は行動の指針として「5つのリスペクト」というものを持っています。（詳しくは前々号の記事をお読みください）現在は、校長が中学一年生と三年生を、教頭の私が中学二年生を対象に週に一時間で一学期間、「5つのリスペクト」と題した授業を担当しています。関西学院側からは、この授業の中身、5つのリスペクトの理念そのものが、まさにキリスト教の理念と根っここの部分が共通である、従って宗教ということに焦点を当てなくとも、これまでどおり5つのリスペクトを大切に教育を変わらず続けることの中に、キリスト教主義に基づく関西学院の期待することは含まれている。という確認をいただいています。

関西学院大学への推薦枠にどのような変化があるのか？ということについてですが、現在も卒業生の人数が90名弱のところに20名の指定校推薦枠をいただいている関係であり、今後より多くの生徒が、望むならば関西学院大学に入学できる可能性は大きくなっていくことと思われます。

ですが、その中においても絶対に変わらないことがあります。それは SIS が大切に考えてきた生徒たちの多様性です。SIS では一人ひとりを大切に、生徒が自分らしい道を切り開くことを促すような教育をしてきました。この多様性というのは、国際性や自主性を重んじ、生徒たち一人ひとりに本物に触れる様々な経験と、そのための自己責任を伴った選択をさせつつ、全人的な成長を見守ることによって生まれるものです。これこそが、開講以来本校が目指して来た教育の形です。この『多様性を尊重する教育』は、これからも変わりません。

本校のホームページをごらんいただくとお分かりいただけると思いますが、本校では生徒の進路を考えるにあたって、生徒一人ひとりが何を目指してどのような分野に進んでいくのか、ということをもっとも大切なものと考えて送り出しています。文系・理系という大枠の表現は使用せず、大学名や合格者人数に焦点を当ててもいません。多様性を促すと同時に、どの方向に進むことになっても、そこに生徒の自主的で積極的な選択があり、一人ひとりの生徒の目指す方向性がはっきりと見える『進路』の見据え方は変わりません。

